

ユニット名	学生FBI
代表者	法文学部 法経学科 西村 和真
所属人数	11名
達成に資するSDGs目標	1 貧困をなくそう 2 飢餓をゼロに 4 質の高い教育をみんなに 10 人や国の不平等をなくそう 12 つくる責任つかう責任 16 平和と公正を全てのの人に 17 パートナリーシップで目標を達成しよう
活動概要	●フードバンクのボランティア(毎月) →私たちはNPO法人「しまね子ども支援プロジェクト」(以下、SCS)が運営している「コミュニティリッジ出雲」でボランティア活動をしており、今後も定期的に行います。 →作業内容はコメ、食品の仕分け作業、商品登録などです。 ●宿題やつつけ会(8月4日、9日) →小学3年生以上を対象に大学生が勉強を教えます。 《このイベントを企画した趣旨》 一人世帯の親御さんから夏休み子供たちに勉強を教える時間を確保できないから勉強会を実施してほしいという要望(「利用者生活実態調査」より)からこの企画を実施しました。 (※「利用者生活実態調査」はSCSと学生FBIが協働して行ったアンケートです。) ●夏まつりイベントの実施(8月24日) 《このイベントを企画した趣旨》 勉強会に加えて夏休みイベントを実施し、楽しい思い出をより多く子供たちに作ってほしいという思いから企画しました。 ●冬イベントの実施(12月ごろを予定) 私たちFBIが応募したコノヒトカンプロジェクト(以下、PJ)の缶詰を用いてイベントを行おうと思っています。 内容は缶詰を用いて1人親世帯の親子を対象とした料理教室の実施です。 また余った缶詰はフードバンクに寄付します。 コノヒトカンPJとは、岡山県にある一般社団法人「コノヒトカン」が行っている活動です。具体的な活動として、廃棄される食材を用いて作られた缶詰を活用して社会の貧困問題と食品ロスに貢献する活動などがあります。私たちは、その団体と協働して、料理教室を考えています。そのためには、団体の審査を通る必要があり、10月に行われる団体の2次審査に参加します。(1次審査は通過しました。)その審査のために、プレゼンを作成しています。 《このイベントを企画した趣旨》 長期休暇にお米や食料を買うことが難しいひとり親家庭にとって、その期間は給食もないため、その親の負担が増え、不安に感じているそうです。そのためにも、私たちが食事に関するひとり親家庭の不安を減らしていきたいと思い、このイベントを企画しました。
主な連携先(予定を含む)	NPO法人「島根子ども支援プロジェクト」 一般社団法人「コノヒトカン」
成果物の公表予定、社会への波及効果	●活動の成果物の公表予定 ①日常的な活動では、Instagramを使って発信します。 ②学園祭でポスター掲示をして活動を公表します。 ③年度末では1年間の活動をまとめた報告書を作成して公表します。 ④コノヒトカンPJではその計画をAPUで報告し、公表します。 ●それぞれの活動の意義 1フードバンクのボランティア活動(SDGsの目標1, 2,10) ひとり親家庭に食品を届けるためにも、フードバンクで寄付していただいた食品をひとり親家庭にそのまま渡してはなりません。例えば、お米1袋が寄付されても、そのまま各家庭に配ってしまうと数も足りなくなってしまう、不公平感もあると思います。 そこで、私たちは利用者さんが食品を安定的に受け取れるようにするために仕分け作業を行っています。また、データ入力も、誰がどのくらい寄付してくださったか把握し、利用者さんが持って行った食料を知るためにも必要な作業です。 そして、これらのことは、フードバンク事業には欠かせない作業です。 よって、この活動の意義はフードバンク事業を支えるためです。 2宿題やつつけ会(SDGsの目標4,10) 子供たちが集中して勉強に取り組める場を提供し、十分な勉強時間を確保できます。 また、私たちが勉強を教えることにより親の負担を少しでも減らせます。これは家庭の経済状況に左右されず、すべての子どもが学びの機会を得ることができ、教育格差を多少なりとも減らすことに貢献できると考えます。 3夏祭りイベントの活動 (SDGsの目標4,10) ひとり親家庭において、アンケート調査で「子どもと過ごす時間がない」と回答していただいた方や「経済的余裕がない」と回答していただいた方が多くいらっしゃいました。 そこで、私たちが夏祭りを実施することで、本来であれば、経済的余裕がなくて行けなかった夏のイベントを子供たちが楽しむことができます。 また、彼らにとってイベントを楽しんだ経験は貴重な体験になると同時に、体験格差の解消にもつながっています。 4冬イベントの意義 (SDGsの目標1,12) コノヒトカンの缶詰を用いて料理教室を地域の方々と協働して実施することで地域とのつながりを生み出すことのきっかけとなります。また、料理教室で出会った親同士が交流できる場所にもなります。 さらに、廃棄食材を用いた缶詰を用いることで、間接的に食品ロスを削減して、資源を無駄なく循環させることに貢献しています。 このように、料理教室を通じて、親子、ほかの家庭、地域がつながることでひとり親家庭の方のよりどころになると同時に、食品ロスの削減にもつながっています。 ※すべての活動に共通すること(SDGsの目標16, 17) 私たち学生にとって、これらの活動を通じて、経済格差による経験格差の問題などのひとり親世帯の課題を知り、その課題を減らしていくために、解決方法を考えていくきっかけになります。 また、活動するにあたって、NPOや出雲のボランティアセンター様や荒木コミュニティセンター様、お米作りでは、雲南の農家さんなどといった地域の方々と協働することで、ひとり親世帯の手助けの活動が成立します。

ユニット名	学生FBI
活動報告書	○私たちの活動(一覧) I. コミュニティフリッジ出雲での補助活動 II. こうのとり蜚米プロジェクト III. 夏休みイベント ➡3-1 宿題やつつけ会 3-2 夏祭りイベント IV. 冬休みイベント V. アンケート調査 VI. コノヒトカンプロジェクト I. コミュニティフリッジ出雲での補助活動(毎月) 1. 概要 NPO法人しまね子ども支援プロジェクトが運営するフードバンク、「コミュニティフリッジ出雲」(以下コミフリ)において、補助活動を行った。コミフリは、ひとり親家庭の生活支援を目的としたフードバンクであり、コミフリを学生の立場から応援することを目的として、月に一回程度、継続的に活動した。 2. 活動内容 月に一回程度、寄付された食品の仕分け作業や寄付品のデータ登録を担当した。加えて、島根県立大学の地球食堂サークルと連携し、共同で作業を行った。12月には、地域住民ほかボランティアとともにコミフリの大掃除を実施し、利用環境の整備にも取り組んだ。 3. 成果 定期的に運営補助を行うことで、コミフリの作業負担の軽減に貢献した。また、学生にとっては、ひとり親支援活動の実態を身近に感じる機会となった。加えて、他大学の学生や地域の関係者とともに活動する中で、協力して取り組む体制づくりにつながった。 4. SDGsとのかかわり この活動とSDGsのかかわりとしては、1「貧困をなくそう」2「飢餓をゼロに」という目標や島根県立大学生や地域のボランティアの方々と協力して活動しているという意味で17「パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に関係している。 II. こうのとり蜚米プロジェクト(4月～8月) 1. 概要 このプロジェクトは、株式会社谷口印刷様の糸川さんとの協働事業である。ここでは、学生FBIが糸川さんと協働して稲作を実施した。 2. 活動内容 4月に田植えを行った。学生FBIでは一人一人糸川さんに教えてもらいながら機械に乗って、自前で稲を植えた。6月には中干し、8月には稲刈りを行った。ここでも機械を運転させていただき育ててきた米を収穫した。その後、収穫した米はコミフリへと寄付され利用者へと届けられた。 3. 成果 525キロの米を収穫することが出来た。袋数は17、5袋である。全てコミフリに寄付したことにより、利用者のもとへと届けられ昨今の物価高に苦しむ家庭への助けになったといえる。また、皆が初めて稲作自体を田植え機やコンバインといった機械を使用して経験できたことも大きな学びとなった。 4. SDGsとのかかわり この活動とSDGsとのかかわりは、お米作りという点で2「飢餓をゼロに」や糸川さんを中心にして、皆で協力して活動ができたということと17「パートナーシップで目標を達成しよう」の目標が考えられる。 III. 夏休みイベント(8月) III-1. 宿題やつつけ会(8月4日と8月9日) 1. 概要 夏休み期間中における子どもたちの学習機会を確保するとともに、大学生との交流を通じて安心して過ごせる居場所を提供することを目的として、「宿題やつつけ会」を実施した。 2. 内容 8月上旬に小学生以上を対象とした学習支援イベントを開催し、大学生が宿題や学習のサポートを行った。学習だけでなく、大学内の学食で昼食をともにする時間や、自己紹介ビンゴなどのレクリエーションも取り入れた。また、後日開催する夏祭りイベントで使用する道具の準備を子どもたちとともにに行った。 3. 成果 本イベントの参加者は、二日間で計7名であった。事後アンケートでも、「勉強の教え方がわかりやすかった」、「おやつを食べながらレクリエーションをしたのが楽しかった」などの意見が見受けられた。勉強に加え交流の時間を設けたことで、子どもたちとともに楽しい時間を共有できたと考える。 4. SDGsとのかかわり SDGsのかかわりは、勉強を教えるという意味では4「質の高い教育をみんなに」が当てはまり、家庭の経済状況に左右されず子供たちに学びの機会が与えられたという点では10「人や国の不平等をなくそう」にも関係している。また、ラインのオープンチャットで募集した学生ボランティアの協力があったこの活動が成り立ったことから、17「パートナーシップで目標を達成しよう」の目標が関連している。 (※ 我々学生FBIは夏イベントのほか、冬イベントにおいても学生FBIを除いた学生ボランティアを募り、イベントを実施した)

ユニット名	学生FBI
活動報告書	Ⅲー2. 夏祭りイベント 1. 概要 我々がコミフリ利用者を対象とした独自のアンケートである『2024年ご利用者様「生活実態調査アンケート」』で子どもの体験活動が少ないということが分かり、子どもたちに楽しい思い出を作ってほしいという目的でこのイベントを企画した。 2. 活動内容 夏祭りで見られる縁日系として射的、ストラックアウト、輪投げを段ボールなどで制作した。工作系としてはミサンガやビュンビュンこま、プラバンづくりのブースを設置した。また、別室ではそうめんやかき氷を提供し、大学生が子どもたちと食事を共にした。加えて今回、Instagramのダイレクトメッセージにて声をかけてくださった尾崎様にもご協力いただいた。なお、尾崎様は雑貨の販売や子ども支援や親子活動支援などを行っている方であり、今回のイベントではハンドメイドのブースや知育玩具で遊べるスペースを設置してくださった。 3. 成果 今イベントの参加者はおよそ40人に及び、事後アンケートでは子どもが満足したという回答を多く寄せていただいた。中にはお気に入りのブースを見つけ長時間遊んでいた子どももいたため、楽しい思い出を作ってもらったという目的は達成できたと考える。 4. SDGsとのかかわり この活動とSDGsとのかかわりは、本来であれば、経済的余裕がなくて行けなかった夏まつりにだれでも参加できるという点で10「人や国の不平等をなくそう」が対応し、この活動も学生や地域の方々の協力があってこそ成立するという点で17「パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に対応する。 Ⅳ. 冬イベント(クリスマス会) 1. 概要 12月20日、出雲市総合ボランティアセンターにて、小学生を対象としたクリスマス会を開催した。参加者は小学生13名で、交流や体験活動を通して楽しい時間を共有した。島根大学、島根県立大学出雲キャンパスの当日ボランティアの学生や尾崎様、長谷川様、コミュニティフリッジ出雲などの協力を得ながら実施した。 2. 活動内容 はじめに、ビンゴカードを活用した自己紹介を実施した。好きな食べ物や動物等をテーマに質問を行い、参加者同士の交流を行った。続いて、巨大すごろくを実施し、なぞなぞ、クイズ、じゃんけん等のミッションを行った。その後、フルーツポンチ作りおよびミニドーナツのデコレーションを実施した。また、食事時間に「コノヒトカン(後述)」を活用したおにぎりの紹介および試食を行った。最後に、サンタクロース役(毎熊先生)およびトナカイ役(西村和真)が登場し、学生FBIが準備したプレゼント、ならびにコミュニティフリッジ出雲および長谷川様より提供されたプレゼントを配布し、クリスマス会を終了した。 3. 成果 本イベントには小学生13名が参加し、事後アンケートでは子ども・保護者ともに満足したという回答が寄せられた。特に、お菓子作りやプレゼント企画が楽しかったという意見が見られた。活動中には、友達同士で協力する様子や、初めて会った子ども同士と一緒に遊ぶ姿も見られ、交流の機会を提供することができた。これらのことから、子どもたちに交流の場を提供する、子どもたちに楽しんでもらうという本イベントの目的は達成できたと考える。 4. SDGsとのかかわり この活動とSDGsとの関係は、コノヒトカンとSDGsに関する説明やコノヒトカンを使っておにぎりを食べたことに限っては、4「質の高い教育をみんなに」と12「つくる責任使う責任」が当てはまる。また、この活動をするにあたって、島根県立大生の学生ボランティアさんやボランティアとして参加していただいたMOKUMOKU様、プレゼントに協力していただいた出雲市の訪問介護師の長谷川様やメンバーみんなの協力があってこのイベントを成し遂げることができた点で、17「パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に対応する。 Ⅴ. アンケート調査(8月～12月) 1. 概要 2025年の「コミュニティフリッジ出雲」の利用者の生活実態を明らかにするために、NPO法人「しなね子ども支援プロジェクト」と協力してアンケート調査を行った。 2. 活動内容 2025年における「コミュニティフリッジ出雲」利用者を対象とし、google formsを使ってアンケート調査を行った。 3. 成果 アンケート調査を通じて、ひとり親家庭が抱えている問題が明らかになった。 また、自由記述のセクションでは数字では見えない悲痛な思いが書かれてあり、彼らの実態を知る機会になっただけでなく、集計を担当した学生に関してはこの調査自体が集計のトレーニングとなったことから、我々にとっては貴重な経験となった。そして、アンケート調査で得られたことを用いて、彼らのニーズを反映した「クリスマス会」などといったイベントの開催もできた。 4. SDGsとのかかわり アンケート調査によってわかったニーズからそれらに対応した夏イベントや冬イベントができたということに関しては、間接的に4「質の高い教育をみんなに」や10「人や国の不平等をなくそう」などに関わる。 また、このアンケートを通じて、我々がひとり親家庭の現実を知ることができたという点でも、4「質の高い教育をみんなに」が関連している。

ユニット名	学生FBI
活動報告書	VI. コノヒトカンプロジェクト(6月～12月) 1. 概要 『コノヒトカンプロジェクト』は一般社団法人コノヒトカンが主催する社会課題解決アイデアコンテスト。正式名称は『コノヒトカン1000缶プロジェクト』(今回は第4回目の開催)。 学生FBIからは5名(チーム代表者は小村悠太)が1チームとして参加。発表順は25番目であり、(25チーム中)成績は、①一次審査を通過(117チームから25チームが選抜された)、②本大会参加。賞は受賞せず、参加チーム(受賞チーム以外)に一律に配布されたコノヒトカン10缶(肉缶5缶、魚缶5缶)を得る。 2. 内容 『コノヒトカン1000缶プロジェクト』のビジョンは、「～缶詰から始まる物語～地域課題や社会問題に目を向け誰もが気にかける心豊かな社会へ!」(公式HPより抜粋)。コノヒトカンは“世界一あったかい缶詰”をコンセプトとしたフードロスを生かした缶詰。市場に出せない肉の脂身や魚のあら、規格外の地元農産物で製造されている。「ニクカン(肉缶)」と「サカナカン(魚缶)」の2種類があり、1缶をごはん2合に混ぜると、約3～4人前の食事となる。アレンジレシピも様々な種類開発されている。他、地域や社会問題を考えるきっかけとなる工夫もなされている。 2025年6月にエントリー。学生FBIチームのコンセプトは『コノヒトカンで繋ぐ人とのカン』家庭と地域を結ぶお料理教室』。一次審査を通過。全国37校117チームの中から、選抜される。 本大会は2025年10月4日。場所はIPU・環太平洋大学で、後援に文部科学省ほか多数の行政機関・企業。全国に配信されている中、一次審査を突破した25チームによる5分間のプレゼンテーションが行われた。配布されたコノヒトカンは、上記の冬休みイベントで2缶使用した。 3. 成果 学生FBIチームは受賞を逃す。一律に配布されたコノヒトカン10缶を得る。 全国から37校117チームの応募があった中で、一次審査を突破し、かつ、全国に配信されている中で学生FBIの取り組みと提案を話すことができたことは、またとない恵りの多い機会であった。この大会をもって、他団体と、問題点や解決策などの視点を共有できたことが最も大きな成果物だったと認識している。 一方で、顧みなければならぬことも発見した。全員が一年生メンバーであったことも加味しても、課題の残るプレゼンテーションであったと分析する。反省点を挙げると、発表時間の5分はわずかに超過し、しゃべるスピードも練習時より不安定であった。対外経験を積むことが急務であると考え、今後機会があれば、このような場に積極的にいかかわっていきたい。 4. SDGsとのかかわり 「コノヒトカン」というものが規格外等の理由で捨てられてしまう食材を活用しているという点から、12「つくる責任　つかう責任」に該当する。また、このプロジェクトで他団体と意見交換を通じて、新たなつながりができたという点では17「パートナーシップで目標を達成しよう」に該当する。 ○その他の活動 ・大学からの認定(2025年8月8日) →認定証だけでなく、10万円の支援金もいただいた。 ・令和7年度第一回学長記者会見に出席(2025年9月26日) →島根大学SDGsユニット制度の新設に関わる会見に参加し、学生FBIの活動や意気込みについて話した。 ・1月の中間報告に出席(2026年1月20日) →松本一郎教授の「SDGs概論」の最終講に登壇し、我々が今年度行った活動の中間報告を学生に向けて行った。 ・ロータリークラブへの出席(2025年2月25日) →一畑ホテルで行われたロータリークラブの報告会に参加し、2025年度の我々の活動について松江市の企業の役員に向けて発表した。 ・Instagramでの広報 →毎イベントやコミフリを訪れる際に投稿している。 また、イベントで行ったことやコミフリでどのくらい米を袋詰めしたかなどを写真とともに記載している。